グランドフォークスだより

第０７８号　2009 年 6 月 6 日（土）　～ 2009 年 6 月 13 日（土）

6 月も半ばになって、急に暑くなってきました。気温 78 度 F は摂氏で言うと 26℃になります。車で２５分ほどの湖では、多くの若者が泳いだり、日光浴をしたりしていました。環境に素早く反応するのも若さの特権です。

航空機の進歩、そして CRM（Crew Resource Management)の研究によって、望まれる乗員の姿も少しずつ変化していきます。というより積極的に環境の変化に対応しなければならないでしょう。欧州とは随分遅れをとっていましたが、欧米に習い、これまでと同様の技量的な能力に合わせて Non Technical な能力が重要な要素となってきました。パイロットの常識も変化してきているのです。

100 年に一度の世界的な不況は、航空業界にも影響していますが、安定したパイロット養成は今後も変わらないようです。中長期的には航空需要が増大、世界的なパイロット不足は続きそうです。航空会社にとって質の高いパイロットを安定的に、長期に確保する必要性は不可欠でしょう。さらに不況だからこそ実戦力、即戦力となるパイロットを望む航空会社も増えてくると判断できます。

東海大生が行っているＵＮＤでの訓練には、実践的な訓練（Soft-Field Landing)、LOFT 訓練、CRM トレーニング（学科教育)、高性能な装備の航空機（グラスコックピット、GPS、ワース、ADSB、LPV など)での訓練などがあり、これらは日本の基礎訓練では行われていません。さらに、ＵＮＤの操縦学の学生は（東海大生は実施していませんが)、教育証明の取得、ＣＲＪ機による訓練（2 Men Concept や JET 機への移行訓練など）も行っています。彼らはアメリカのエアコミューター会社への即戦力パイロットなのです。

一期生も今年４回生であり、来年卒業に向けて就職活動中です。
彼らが、今後エアラインパイロットとして活躍していくなかで、ＵＮＤでの経験、そして即戦力としての工夫と発展させていく訓練内容をもって実績を創り上げていくことで、東海大生達が、航空会社の即戦力として安定した乗員ソースになるものだと思っています。ともあれ学生は、技倆の定着に邁進している毎日です。

恒例のアルパーマーさん主催のパーテイーがリンカーン公園で催されました。３－１期生は、好天の中、楽しいひと時を過ごしていました。約５０名ほどのＵＮＤ関係者も参加していました。

操縦訓練状況

２－１：　全員ＪＣＡＢ事業用課程で訓練に邁進しています。

２－２：　ＦＡＡのＣＰＬ課程で訓練中です。lesson の進捗に差がでています。
今後調整しながら少しずつ追いかけていくことになります。

３－１：　ＦＡＡ　ＰＰＬ課程で訓練中です。

BY　遠山誠二